

同志社大学・チュービンゲン大学共催 第5回国際シンポジウム開催

3月11日（火）・12日（水）の2日にわたり、本学とチュービンゲン大学の共催による「第5回国際シンポジウム」が開催された。本シンポジウムは、両大学の戦略的協力協定に基づき、学際的な議論を通じた学術交流の深化を目的としている。第5回のテーマは「Humans and AI: Coexistence and Conscience（人とAI：その共存と良心）」であり、AI技術の進展が社会や倫理に与える影響について、多角的な視点から議論が交わされた。今回は、チュービンゲン大学から次期副学長をはじめとする7名の代表団が来学した。

シンポジウムの幕開けとなった基調講演は寒梅館ハーディーホールで行われ、学内外の教職員の他、大学関係者や一般来聴者など約80名が参加した。小原克博学長は「AIと良心 ―宗教文化的多様性の視点から」と題し、AIが人間の価値観や倫理観とどのように調和できるかについて講演を行った。宗教や文化の多様性がAIの開発や活用に与える影響についての考察は、多くの聴衆に新たな視点を呈示した。来聴者アンケートでは、「AIの技術性の進化と良心を結びつけた点が興味深かった」「大学には、専攻の枠を超えて学生がAIを広く学べる機会を提供することが求められていると認識した」といった意見が寄せられ、満足度の高い講演となった。



AIと良心を題材に基調講演を行う小原学長
引き続き、チュービンゲン大学の

次期副学長である Katja Schenke-Layland 教授が「Artificial Intelligence in Tübingen - Highlights and Perspectives」と題し、同大学におけるAI研究の最前線を紹介した。特に医療分野やロボティクスにおける応用事例が紹介され、チュービンゲン大学におけるAI研究が社会の発展にどのように貢献しているかが明確に示された。



基調講演でチュービンゲン大学におけるAI研究を紹介する Schenke-Layland 教授



講演のテーマを掘り下げたディスカッションの様子

基調講演に続いて行われたディスカッションでは、木原活信副学長がモデレーターを務め、講演の要点を的確に整理しつつ、今後の焦点と課題を導き出した。さらに、聴衆からの質問へとつなげることで、活発な意見交換が展開された。基調講演とディスカッションは日英同時通訳を介して行われ、会場からは多くの質問が寄せられた。

その後、会場を良心館 RY305 に移し、英語によるパネルディスカッションが行われた。テーマは「Humans and AI」、「AI in Space Technology and Medical Sciences」、「AI and Legal Challenges」の3つに分かれ、本学とチュービンゲン大学の研究者によるプレゼンテーションの後、登壇者と参加者の間で熱のこもった議論が交

わされた。各パネルには30名前後が参加し、会場では終始、活発な意見交換が続いた。

「Humans and AI」セッションでは、LLM（大規模言語モデル）の社会的影響や、ソーシャルロボットが人間のウェルビーイングに与える影響について多くの質問が寄せられた。「AI in Space Technology and Medical Sciences」では、AIを用いた宇宙天気予測や医療画像解析の最前線に関心が集まり、「AI and Legal Challenges」では、個人データの保護やAIによる意思決定の透明性について活発な議論が展開された。



参加者の質問を受けながら議論が展開されたパネルディスカッション

パネルディスカッション終了後には Farewell Party が開かれ、登壇者を中心に、共同研究者や大学関係者が多数参加し、最後まで活発な交流が続いた。個別研究交流の機会創出やディスカッションの続きを深める場ともなった。

本シンポジウムを通じて、本学とチュービンゲン大学の学術的連携が一層深まったことを確信している。今後も、幅広い分野での研究交流を推進し、両大学の関係をさらに発展させていく所存である。

最後に、本シンポジウムの運営に携わったすべての方々に心より感謝申し上げる。特に、今回より企画・運営に本格的に関与された研究開発推進機構の皆様およびチュービンゲン大学の Dr. Karin Moser von Filseck の多大なるご尽力により、本シンポジウムが成功裏に開催できたことを、この場を借りて付言しておきたい。

（EU キャンパス支援室）